

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		Linkerノア		公表日		2025年 2月 18日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点	
環境・整備運営	1	訪問支援に使用する場合の教員教材は適切であるか。	○		教員教材を使用するかについては訪問先施設との連携が必要であるため、基本的には使用することはない。	今後、児童の実態に合わせて、訪問先施設と密に連携が取れる仕組みを考えていく。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		公認心理師も配置し、専門性のある職員が携わっている。		
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		課題や振り返り等、毎日の朝礼やSNS上で適宜共有できるようにしている。		
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ご意見をいただいた際には、すぐに職員全体で共有し、改善に繋げるようにしている。	今後、保護者様の意向等を把握する機会をより増やしていき、ご家庭、訪問先施設、当事業所との連携を密にしていきたい。	
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		業務に関する課題を毎日の朝礼やSNS上で適宜共有しており、それを踏まえ、職員全体で改善点を考え改善に繋げている。		
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	外部評価を行うには費用がかかるため、療育に予算をつけることを優先している。	保護者様に適宜評価していただけるよう、開かれたサービス提供を行っている。	
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		ABA、理学療法、発達心理学等の専門的な研修を周知し、参加できるようにしている。		
適切な支援の提供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	○		様々な視点から細かく聞き取りや観察を行い、本質的にどのような支援が必要と考え、支援計画に反映している。		
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		行っている。		
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。		○	訪問先から要望があった場合は、できるだけ意向を盛り込んだ計画を立てるようにしている。		
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画に記載している以上の支援を、日々の実態に合わせて行っている。	日々の実態に合わせて支援計画も細かく更新、活用していけるようにしたい。	
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○	標準化されたツールに頼るだけでなく、児童の実態に合わせたアセスメントを行っている。	標準化されたツールでの評価も参考にしつつ、それに観察、考察を重ねてアセスメントを行うという仕組みを運用していく。	
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼、昼礼やSNSで情報共有を行っており、その日必要な支援について毎日話す機会を取っている。		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		時間の都合でその日に振り返りができなかった場合でも、報告書を通して職員間で情報を共有し、気になった点があれば早急に対応できるようにしている。	通常の業務もあるため、情報を共有する時間がゆっくり取れないので、より効率的に情報を共有できる方法を模索中。	
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	○		訪問支援に入る前に一度訪問先に伺い、園長先生や各学校の教頭先生にごちの方針を丁寧に伝えて同意を得てから支援を始めている。	年度が変わり各学校内で先生の移動があった場合、どのようにしたら上手く情報が引き継げるのか、今後の課題になってくる。	
18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	○		訪問記録をスタッフ間で共有し、日々の支援に繋げている。			

関係機関や保護者との連携	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		計画書の見直しが必要だと感じた際には、訪問先との連絡を早急に行い対応している。	学校の先生も通常業務で忙しく、なかなか連絡がつかないことが多い。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的に全ての支援者会議に参加している。	
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		整えている。こちらからではなく、関係機関から意見を聞きたいとご連絡を頂く事もある。	
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学前には児童の支援シートを作成し、現状や関わり方などを分かりやすくまとめており、保護者の方が希望があれば、直接学校にも説明に伺っている。	
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		事業所内で定期的に研修を実施したり、自由参加ではあるが外部研修にも積極的に参加している。	外部研修は休日にあるので、家庭の都合で参加できないスタッフもいる。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	○		西宮の連絡協議会に参加して、情報をいただいている。	
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		何かあれば、小まめに電話をしたり、必要に応じて面談を行っている。場合によってはデイに来てもらい、子どもへの関わり方をレクチャーしている。	
26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		講義形式にしたり、実技形式にしたりと年に数回実施している。	全ての保護者様に実施している訳ではないので、これからは自由参加で募っていくことも検討中。	
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		初回面談、変更時等には丁寧に行っている。	
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	○		訪問支援に入る前に一度訪問先に伺い、園長先生や各学校の教頭先生にこちらの方針を丁寧に伝え、同意を得てから支援を始めている。	
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		個別支援計画作成時はもちろん、それ以外でも実施している。	
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画作成時以外でも、問題があれば都度相談しながら支援している。	
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○		行っている。	これまではこちらが気になって連絡をしたり、保護者様から連絡があり面談日を決めていたが、そうするとご遠慮されておられるご家庭もあるようなので、年に数回はこちらが面談日を決めて、回数が偏ることなく実施するようにする。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		本年度より保護者会の回数を増やしている。	
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談をお受けしたら、迅速に対応している。	
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		発信している。	
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		SNSには顔を隠したとしても、児童を特定される可能性があるので写真のアップは行わない。	
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		何か事業所で気になる事があればご連絡し、デイでこのような行動をしている場合は、家では○○のようなことをしている可能性があるなどの仮設を立てて、言語を使った意思疎通以外の関わりも実施。	
37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	○		必要があれば設定している訪問日程以外にも時間を調整し、電話等で相談を受けることもある。		

訪問先施設への説明等	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。		○		先生も通常業務があり、都度時間を設けてもらうのは難しい。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	○		訪問後は迅速に報告書を作成し、保護者の方へ情報を共有できるよう徹底している。	
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	○		必要があれば設定している訪問日程以外にも時間を調整し、電話等で相談を受けることもある。	
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		作成したものをHPに掲載し、いつでも確認できるようにしている。	存在を知らない保護者がまだ数人いるので、周知を徹底する。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		法人内で安全管理担当を決めて、細かな情報を一括管理し、全スタッフに周知するようにしている。	
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットに関しては、法人内の他事業所のものも確認できるようにしている。	
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に虐待防止についての研修を行っている。	
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束は基本的には行っていない。	子どもとの関わりの中で身体拘束ではなくても、保護者の同意が必要なもの、事前説明があった方がトラブル防止になるようなことは常にご連絡をしているが、これからはコンプライアンスが厳しくなっているので、より細かくご連絡する方向にしている。